

# 国語科 授業構想

平成26年10月10日(金) 5校時 3年3組教室  
 3年3組(男子18名, 女子16名, 計34名)  
 授業者: 教諭 伊藤明美

1 単元名 4 古典を楽しむ 夏草「おくのほそ道」から

## 2 教材観

日本の代表的な伝統的言語文化のひとつである俳諧紀行文にふれるとともに、時間を越えて、松尾芭蕉の多様なものの見方や感じ方にふれ旅の心に同化させたい。また、学び、感じたことをグループでの交流で深め、より広く他者へ発信させることにもつなげたい。自分の思いが相手に正しく伝わることで学びが深まり自分の内面が豊かになっていくことにも気づかせたい。

## 3 生徒の実態

3年1学期「俳句の可能性」で俳句について学習している。「俳句十六首」では、グループで調べ発表する学習をし、交流によって学びが深まる楽しさを学習している。9月の修学旅行を経て、仲間と交流する楽しさを感じているが、発表には抵抗感が強く、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。グループでのかかわり合いで学びが深まる生徒に育てたい。

## 4 本時について

(1) 本時の学習 夏草「おくのほそ道」

(2) 本時のねらい

- ①「夏草や～」の俳句を鑑賞し、芭蕉の平泉の地での思いを想像する。【読む エ】
- ② 地理的歴史的背景をふまえ、芭蕉が高館で「時がうつるまで涙を流した」思いを交流し、感想を書く。【伝国ア (イ)】

(3) 本時における「わかる生徒の姿」

地理的歴史的背景や芭蕉の人生観をふまえ、高館で「涙を流した」芭蕉の思いにせまり、自分の感想を書くことができる。

(4) 展開構想 ○→主な学習活動 ・→(予想される)生徒の反応 ①, ②→評価場面

学びのステップ	学習内容と予想される生徒の反応	指導上の留意点	かかわり合いの態
導入	○全員で教科書の本文を音読する。	姿勢よく、声の大きさに気をつけて朗読できているか。	全体
<b>学習課題 なぜ芭蕉は「時がうつるまで涙を流した」のか。平泉の地での芭蕉の思いにせまろう。</b>			
第1ステップ	○芭蕉が高館で「時がうつるまで涙を流した」思いをグループで交流する。 ・「旅＝人生」の芭蕉の人生観。 ・万物の移り変わりのはかなさをいたむ。 ・義経や家臣の運命をいたむ。 ・藤原三代の運命をいたむ。	自分の考えをわかってもらえるように発表し、自分の考えと比べながら他の人の発表を聞くことができているか。 ①グループでの交流	4人組
第2ステップ	○グループでまとまった考えを発表する。	個人の考えが生かされたグループ発表になっているか。 ①グループの発表	
ラストステップ	○芭蕉が「夏草や～」の俳句に詠んだ平泉の地での思いを想像し、感想を書く。 ○振り返りを書く。	グループの話し合いよりも他のグループの発表を聞いて深めさせる。 ②学習シート	個人